

愛媛新聞（2026年8月22日）に掲載されました。

熊本地震の被災地で支援活動に取り組んだ松山赤十字病院（松山市文京町）の医師や看護師ら救護班7人

車中泊やトイレ 現状共有

松山赤十字病院 熊本地震 救護班報告会



熊本地震の被災地での支援活動を報告する救護班の看護師長ら＝21日午後、松山市文京町

の報告会が21日、同病院であった。車中泊やトイレ環境などの現状を共有した。救護班は8～13日、宇城市の小川防災拠点センターを中心に市内を巡回。厳しい暑さの中で避難所生活を続ける住民らから話を聞くなどして心のケアに当たった。

消化管内科の高野太郎医師は「屋外トイレの衛生状況に注意という報告を受けトイレを清掃するなど、被災者の生活環境整備に努めた」と話した。車中泊や避難所で起こしやすい深部静脈血栓症については、症状を訴えた人に弾性ストッキングの装着を介助するなど健康状態の維持、管理に努めたという。

三好真由子看護師長は「環境の変化などから便秘に悩まされるケースがあり、トイレの設置と清潔な環境管理に注意した」と説明。東日本大震災や10年前の熊本地震の際も参加した日赤愛媛県支部の小池智美福祉係長は、災害に合わせた救護体制と一番大事な情報は何かを見極める力が重要とし、「経験を生かして後方支援や研修などに生かしたい」と述べた。

（尾崎麻貴）

掲載許可番号：d20260826-04